

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

第2期基本計画は、前計画で福島駅を中心に形成された南北軸の新たな賑わいを東西軸へと拡大させることにより商業活性化につなげ、「震災からの力強い復興とまちなか再生を継続的かつ確実なものとする」ことを目標としている。

本計画で掲げた58事業については概ね順調に着手し、更に新たな2事業を変更にて加え60事業として計画3年目に至っている。

現時点では主要事業が未完了なため事業効果が明確に現れていないが、今年度末には完了を迎える主要事業があることから効果が期待でき、今後も目標指標達成のため、主要事業を核として中心市街地活性化事業を確実に推進していく。

現在の中心市街地の状況は、第2期基本計画にて施行した中心市街地の魅力向上に繋がる回遊拠点の整備により、南北軸における周辺道路では歩行者・自転車通行量が増加しており、周辺商店街からは、賑わいが増したという声が聞かれる。

第2期基本計画では新たな賑わいを創出するため、福島駅前通りリニューアル整備事業によりイメージアップを図り、福島駅から東側の繁華街へ伸びる福島駅前通りを新しい東西動線軸と位置づけ、前計画で創出できた南北動線軸と共に回遊性を向上させ、中心市街地の魅力を向上させるとともに、総合病院の移転新築計画が東西軸線上にて着手されたことによる集客の向上と、高度医療の拡充と近隣で計画された分譲住宅を含む複合施設整備等により、居住人口の増加が期待される。

更には計画変更で位置付けた、福島駅前通りの隣接地の福島県立医科大学新学部の設置により、学生等の若者を中心とした交流人口の増加、回遊性の向上等により賑わいの創出が期待できる。

また、官民が連携して中心市街地活性化に取り組んでいることにより、平成27年度以降も複数の民間マンション建設が進められるなど、中心市街地における民間投資が活発になるといった好循環が生まれている。

居住人口に関して、住民基本台帳上は減少している結果となっているが、東日本大震災に起因して発生した原発事故により、住民票を異動せずに居住している方が多く存在することが確認されており、今後、定住化による居住人口増加が期待できる。

2. 平成28年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

協議会を福島市と年2回開催し、分科会においては福島駅前通りリニューアル推進会議や県庁通りリニューアル検討会等を年に26回開催して、中心市街地の諸課題に取り組んでいる。

また、前計画の実情を踏まえ、第2期基本計画の目標指標の達成に必要な個別事業や活性化事業の進捗等を管理しながら官民が連携して取り組んでおり、新たな事業を加えて60の活性化事業を着実に実施しており、中心市街地の事業者からは第1期基本計画以降、賑わいが少しずつ回復しているとの声も頂いており、本計画が概ね順調に推移していると評価している。

しかし、東日本大震災及び原発事故における風評被害等の影響がまだまだ残っており、目標指標の達成に至っていないことから、引き続き復興・再生を図り中心市街地再生を持続的かつ確実なものとするため、官民が連携し集中的・効果的な取り組みによる都市機能の強化と経済活動の向上を総合的かつ一体的に推進して参りたい。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目 標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	34,918 人/日 (H26)	35,970 人/日 (H31)	34,643 人/日 (H28)	③	③
賑わいの創出	新規出店舗数	22 店舗 (H26)	25 店舗 (H31)	14 店舗 (H28)	③	③
快適居住の促進	居住人口	16,750 人 (H26)	16,820 人 (H31)	16,444 人 (H28)	③	③
快適居住の促進	文化・交流施設利用者	2,330,327 人 (H25)	2,524,700 人 (H31)	2,293,953 人 (H27)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

2. 目標達成見通しの理由

（歩行者・自転車通行量）

歩行者・自転車通行量については、基準値に対して約1%減少しているが、前年よりは若干増加している。前計画からの事業効果で緩やかながら増加傾向にあり、今後、第2期基本計画の掲載事業が完成することにより、前計画の南北軸と本計画の東西軸が連携して街なかの回遊性を向上させ、歩行者・自転車通行量の増加が期待される。

（新規店舗数）

新規出店舗数については、基準値に対して減少しているが、空き店舗数はほぼ横ばい、低未利用地の増加数は年々減少していることから、本計画による一定の効果は確認できる。また、現地調査の際、事業規模を拡大している店舗や事業継続が図られている店舗を多く確認しており、数値には表れない賑わいが創出しているものと考えている。

今後、第2期基本計画の掲載事業である総合病院の移転新築、複合型分譲住宅、福島駅前通りのリニューアル等の整備が完了するに伴い、環境が整い集客性も向上し、それに併せて賑わいの創出が図られ、商業の活性化に繋がるものと考えており、新たな新規出店舗が期待される。

（居住人口）

居住人口については、基準値に対して減少している。東日本大震災による原発事故等の影響により、特に子供を持つ家庭を中心に自主避難のため、空間線量率が低い郊外又は市外・県外へ流出しているのが要因と考えられる。

また、東日本大震災に起因して発生した原発事故により、住民票を異動せずに居住している方が多く存在することが確認されており、今後、定住化による居住人口増加が期待できる。

(文化・交流施設利用者数)

文化・交流施設利用者数については、基準値に対して約2%減少しているが、前年よりは若干増加している。

交流施設を使用した震災復興関連の大規模イベントが年々減少しているものの、第2期基本計画に掲載しているソフト事業を連携強化し、福島市（特に中心市街地）の魅力を発信するイベントを増やし活性化に繋げていく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

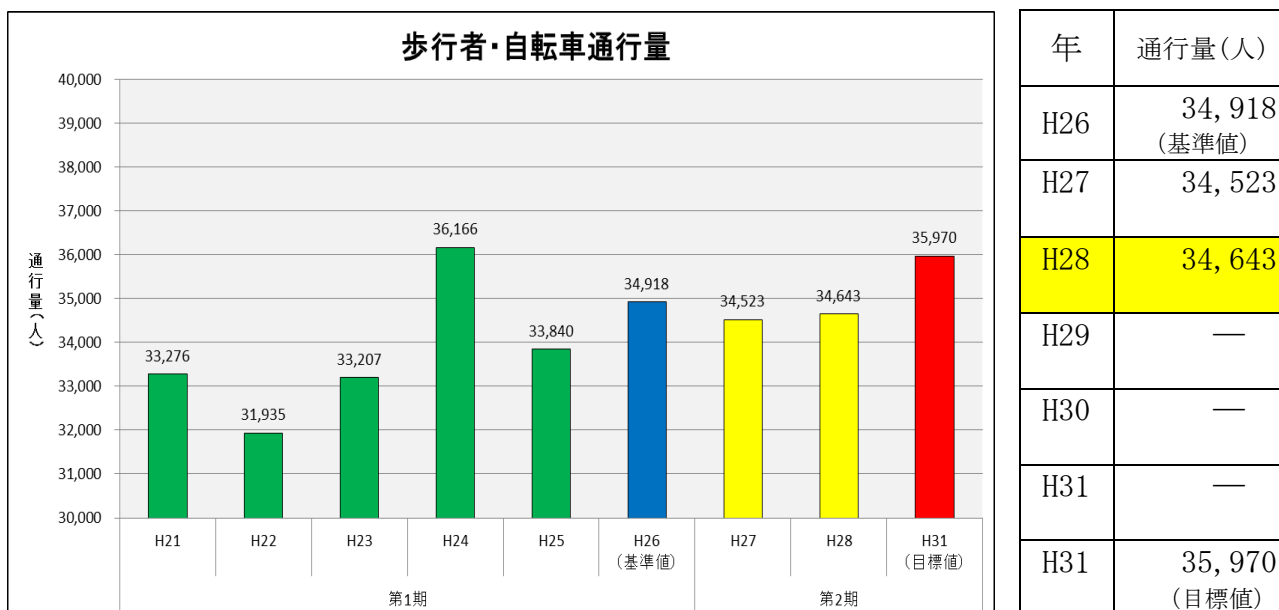
前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

目標1【賑わいの創出】

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方（第2期基本計画 P84～P90）

●調査結果の推移



※調査方法：午前8時から午後7時までの連続11時間の歩行者・自転車通行量（毎年1回、7月に実施）

※調査主体：福島市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者

※通行量値：平日・休日の中心市街地9地点を加重平均した値【加重平均：[休日(2日)+平日(5日)]/7日】

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 上町地区暮らし・にぎわい再生事業・上町地区都市機能立地支援事業

(実施主体：(一財) 大原記念財団)

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	中心市街地にある総合病院を、地域医療を支えるため先進医療導入した拠点病院として整備する。 (地上10階建、病床数353床、立体駐車場、供給処理施設、外構整備等)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設の整備を行うことで東西軸の回遊環境が向上し、自転車通行量が増加、それに伴う賑わいが創出される。 現在、病院棟本體工事に着手し進捗率は82%であり、本事業完了時には、320人の増加を目指す。

② 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

(実施主体：(株) グリーンアカデミー、医療法人社団敬愛会)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 (地上 14 階建て 分譲住宅 45 戸、有料老人ホーム 46 戸)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで中心市街地の回遊環境が向上し、自転車通行量が増加、それに伴う賑わいが創出される。現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は 64% であり、本事業完了時には、84 人の増加を目指す。

③ 腰浜町町庭坂線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	本市の内環状道路に位置付けられる都市計画道路の太平寺岡部線に接続し、福島駅を中心に形成された東西軸の交流機能の強化を図る。 (延長 L=189m 幅員 W=20~25m)
事業効果又は進捗状況	自転車の安全な走行環境を構築するため、歩道と並列する自転車道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、東西軸における歩行者・自転車の通行量が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、道路改良工に着手し進捗率は 98% である。

④ 杉妻町早稲町線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	福島駅南地区で未整備区間となっている本路線を整備することにより街なか回遊軸を形成し、交通機能の強化を図る。(L=240m, W=15m)
事業効果又は進捗状況	医療機関や公共施設等への円滑な交通流動を確保するため本路線に歩道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、自転車・歩行者の安全な交通環境が確保されることにより通行量の増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、建物調査等に着手し進捗率は 12% である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

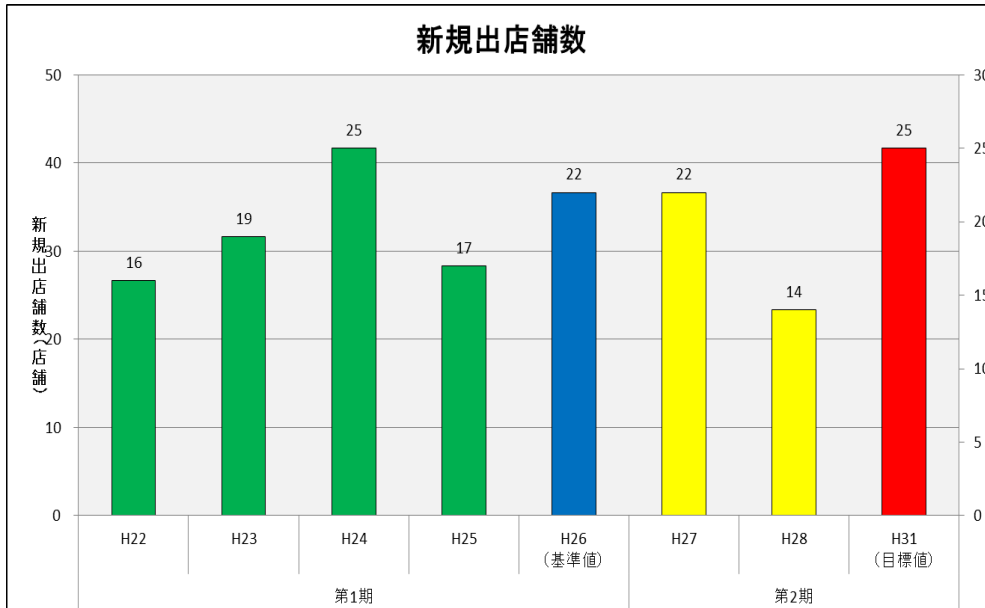
目標 1 の「賑わいの創出」を達成するための指標である「歩行者・自転車通行量」についての見通しと今後の対策としては、前計画の南北動線軸と本計画による東西動線軸を核に、腰浜町町庭坂線、杉妻町早稲町線の道路事業により街なか回遊軸を形成し、回遊性の向上による歩行者・自転車通行量の増加を図る。

また、総合病院の移転新築等により商業環境の改善と集客性の向上を図ることにより歩行者・自転車通行量の増加、それに伴う賑わいの創出が併せて期待できる。

今後も、事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

「新規出店舗数」※目標設定の考え方（第2期基本計画 P91～P93）

●調査結果の推移



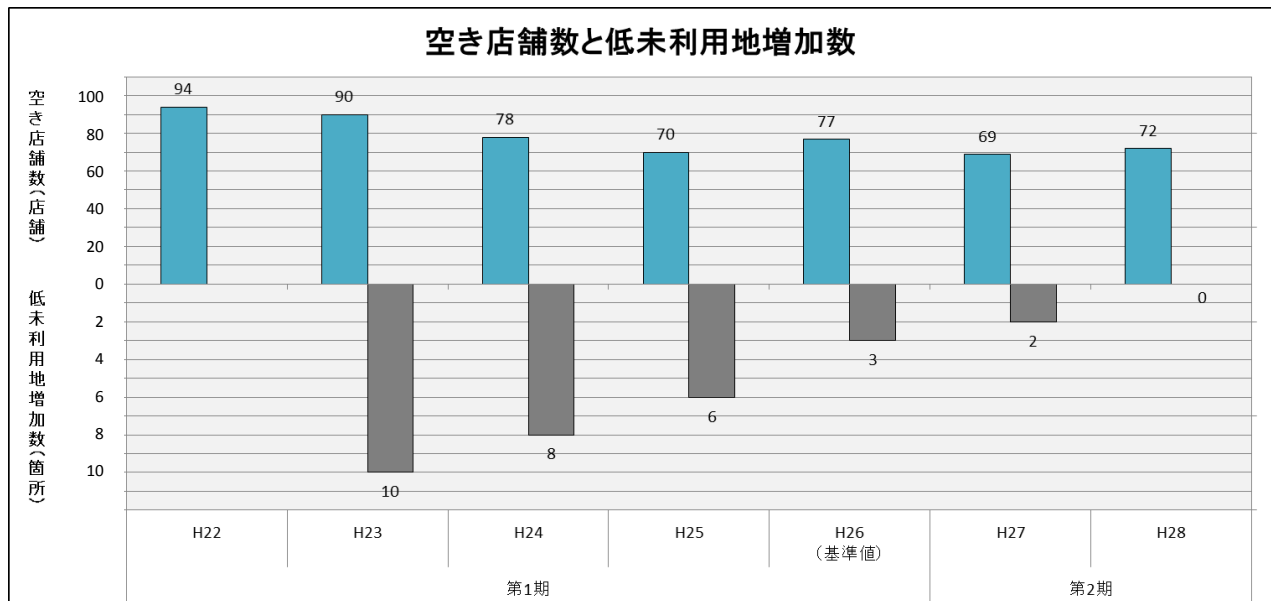
年	新規出店舗(店舗)
H26	22 (基準値)
H27	22
H28	14
H29	—
H30	—
H31	—
H31	25 (目標値)

※平成 31 年度の目標値は、基準値（過去 5 年間の平均値：20 店舗）から 5 店舗増の 25 店舗とする。
（目標年次までの 5 年間に毎年 1 店舗の出店を誘発する）

※調査主体：福島市

※調査対象：中心市街地における中心部（6 地区：本町、大町、置賜町、新町、万世町、栄町）

※参考データ（空き店舗数と低未利用地増加数の推移）



●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 創業応援利子補給事業

(事業主体：福島市)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	創業にかかる融資の利子全額を補助する。
事業効果又は進捗状況	新規創業者を増やし、中心市街地への魅了ある店舗の進出を増進させることにより、賑わいの創出が見込まれる。 これまでの本計画区域内における補助対象件数は 8 件 (H27:4 件、H28:4 件) であり、最終年度には新規出店舗数 25 店を目指す。

② 福島駅前通りリニューアル整備事業

(事業主体：駅前通り商店街、福島市)

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	老朽化したアーケードの撤去、福島駅前通りに面する店舗のファサード整備、街路灯設置を行う。 (整備区間：L=265m)
事業効果又は進捗状況	歩行者優先の「笑顔と賑わい」を育むシンボルストリートを目指し、安全・快適でゆとりのある人に優しい歩行環境の形成と、沿道店舗等と道路空間が一体となることにより新規店舗数が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、アーケード撤去及び街路灯設置に係る設計を行い、進捗率は 25%である。

③ 栄町地区商業施設整備事業

(事業主体：(株) 中合)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の中核的な店舗として、福島駅前地区の賑わいの創出と安全安心なまちづくりのための調査及び施設整備を行う。
事業効果又は進捗状況	集客力の強化を通じた活性化を図るため、消費者ニーズに対応し、かつ周辺商店街等の地域経済が便益を享受できる商業施設の整備を行う。その結果、中心市街地における魅力の向上が期待され、新規店舗数が増加、それに伴う賑わいの創出が見込まれる。 現在、ニーズ調査に着手し、進捗率は 15%である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

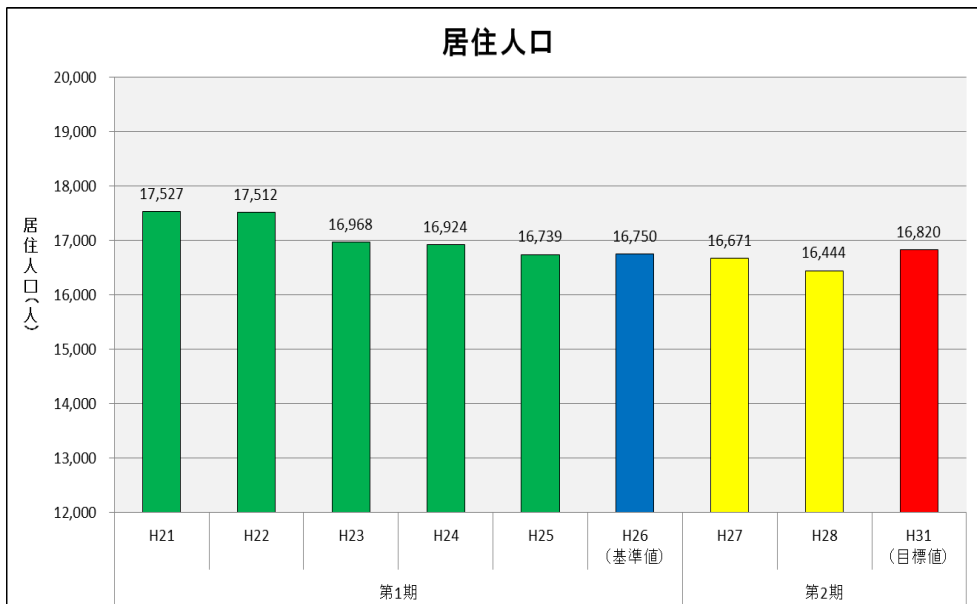
目標 1 の「賑わいの創出」を達成するための指標である「新規出店舗数」についての見通しと今後の対策としては、創業応援利子補給事業、福島駅前通りのリニューアル、空き店舗対策の充実、福島県立医科大学新学部の誘致、商業施設整備事業等により商業環境の改善と集客性の向上を図ることにより、中心市街地における新期出店舗数の増加に伴う賑わいの創出が期待できる。

今後も、事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

目標 2 【快適居住の促進】

「居住人口」※目標設定の考え方（第 2 期基本計画 P94～P96）

●調査結果の推移



年	居住人口(人)
H26	16,750 (基準値)
H27	16,671
H28	16,444
H29	—
H30	—
H31	—
H31	16,820 (目標値)

※平成 31 年度の目標値は、平成 26 年度の 16,750 人から 70 人増の 16,820 人とする。

※調査主体：福島市

※調査対象：第 2 期福島市中心市街地活性化基本計画エリア（297ha）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

（実施主体：(株) グリーンアカデミー、医療法人社団敬愛会）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 （地上 14 階建て 分譲住宅 45 戸、有料老人ホーム 46 戸）
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで生活環境が向上し、快適居住の促進、賑わいの創出が期待される。 現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は 64% であり、本事業完了時には、136 人の増加を目指す。

② 上町地区暮らし・にぎわい再生事業・上町地区都市機能立地支援事業

（実施主体：(一財) 大原記念財団）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	中心市街地にある総合病院を、地域医療を支えるため先進医療導入した拠点病院として整備する。 （地上 10 階建、病床数 353 床、立体駐車場、供給処理施設、外構整備等）
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設の整備を行うことで生活環境が向上し、快適居住の促進、賑わいの創出が期待される。 現在、病院棟本体工事に着手し進捗率は 82% である。

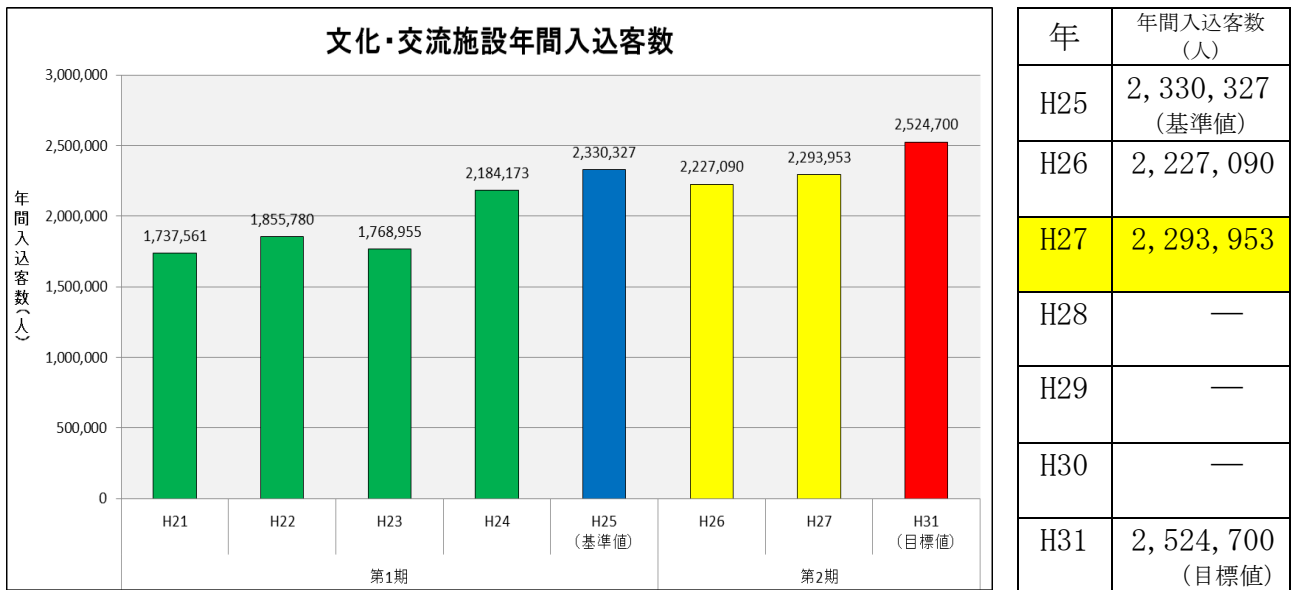
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標2の「快適居住の促進」を達成するための指標である「居住人口」についての見通しと今後の対策としては、中心市街地における居住人口を増加させるため、暮らし・にぎわい再生事業による総合病院の移転新築、複合型分譲住宅の整備等による拠点施設整備により良好な居住環境を提供する必要がある。これらは前計画からの継続事業でもあることから事業の確実な完了を遂行する。

今後も、事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。

「文化・交流施設年間入込客数」※目標設定の考え方（第2期基本計画 P97～P100）

●調査結果の推移



※平成31年度の目標値は、平成21年度から平成25年度までの中心市街地における文化・交流施設年間入込客数に回帰式を当てはめ、将来の年間入込客数を推計

※調査主体：福島市

※調査対象：第2期福島市中心市街地活性化基本計画エリア（297ha）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 文化交流施設整備事業（花の写真館）

（実施主体：福島市）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	東日本大震災で被災した「福島市写真美術館（花の美術館）」の復旧整備を行う。
事業効果又は進捗状況	文化交流施設として再生することで、集客拠点づくりによる魅力の向上と中心市街地内の回遊環境が向上し、文化・交流施設利用者数の増加、賑わいが創出される。 現在、実施設計に着手し進捗率は40%であり、本事業完了時には、13,150人の増加を目指す。

② 霞町地区暮らし・にぎわい再生事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	東日本大震災で被災した「福島体育館」において、新たに交流の場となる多目的スペース等を設置する再生整備を行う。
事業効果又は進捗状況	利用者の健康増進及びスポーツを通じての地域のコミュニケーションの場として建替えることにより、文化・交流施設利用者の増加、賑わいが創出される。 現在、建替え工事に着手し進捗率は 50%であり、本事業完了時には、3,360 人の増加を目指す。

③ 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業

(実施主体：(株) グリーンアカデミー、医療法人社団敬愛会)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	医療施設を整備するとともに、併設して有料老人ホーム、分譲住宅、立体駐車場、店舗等の複合施設を整備する。 (地上 14 階建て 分譲住宅 45 戸、有料老人ホーム 46 戸)
事業効果又は進捗状況	医療・福祉施設・分譲住宅の整備を行うことで中心市街地の回遊環境が向上し、文化・交流施設利用者数の増加、賑わいが創出される。 現在、病院棟・マンション棟・立体駐車場棟工事に着手し進捗率は 64%である。

④ 腰浜町町庭坂線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	本市の内環状道路に位置付けられる都市計画道路の太平寺岡部線に接続し、福島駅を中心に形成された東西軸の交流機能の強化を図る。 (延長 L=189m 幅員 W=20~25m)
事業効果又は進捗状況	自転車の安全な走行環境を構築するため、歩道と並列する自転車道を整備する。 その結果、回遊環境の向上に伴う文化・交流施設利用者数の増加、賑わいの創出が見込まれる。 現在、道路改良工に着手し進捗率は 98%である。

⑤ 杉妻町早稲町線道路事業

(実施主体：福島市)

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	福島駅南地区で未整備区間となっている本路線を整備することにより街なか回遊軸を形成し、交通機能の強化を図る。(L=240m, W=15m)
事業効果又は進捗状況	医療機関や公共施設等への円滑な交通流動を確保するため本路線に歩道を整備することにより、回遊環境の向上が期待される。 また、自転車・歩行者の安全な交通環境の確保により通行量が増加、賑わいの創出が見込まれる。 現在、建物調査等に着手し進捗率は 12%である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標2の「快適居住の促進」を達成するための指標である「文化・交流施設利用者数」についての見通しと今後の対策としては、文化・交流施設利用者数を増加させるため、福島市写真美術館（花の美術館）の復旧整備、福島体育館の再生整備等による集客拠点施設整備を進めるとともに、中心市街地に位置する魅力的な公共施設を回遊ネットワークにより繋げ、各施設で行うイベントを単発で行うのではなく、連携し一体的に行うことにより、より大きな集客性を確保できるよう官民あげて取り組んでいき、施設利用者の増加を図っていく。

今後も、事業年度ごとフォローアップを実施し、中心市街地の現状、各事業の効果を確認するとともに事業の改善も併せ、中心市街地活性化協議会と連携して活性化に取り組んで参りたい。